さぽーと紡～tumugi～

さぽーと紡～tumugi～は、紡の思いに賛同してくださった避難ママと一緒に立ち上がりました。まだ収束していない放射線量の高い地域の子どもたちをどうやって防護していくべきか、少しでも健康であるために、子どもたち一人一人を平等に守るために、意識する者同士がつながり解決していけるよう、支援者の方々の協力も得ながら取り組んでいくのが当会の目的です。

2012 年９月に立ち上げ、支援者の協力を得ながら、世光保育園でのバザーや、ジングルウィーク、ドネーションシップわかちあいまつりの参加、６月・11 月、年二回の避難者こども健康相談会の協力、2013 年夏にはゴーゴーワクワクキャンプ、こども福島ネット、さぽーと紡の寄付で、福島の高校生の合宿を京都で行い、京都の高校生や先生とも繋がることができました。

同年秋には龍谷大学政策学部松浦研究室、OurplanetTV、さぽーと紡の主催で「オンナコドモのジャーナリズム福島のお母さんたちとともに」を開催しました。

本年は京都新聞社会福祉事業団からの助成も受け、８月 17 日～22日には「つむぎプロジェクト」を企画し、NPO 法人和（なごみ）との共催で、福島の中高生と避難した友達との再会を京都で開催、立命館宇治高校との交流や、西本願寺での体験が、子どもたちにとって本当にいい刺激になりました。

他にもたくさんのお誘いを受け、講演やイベントにも参加させていただき、紡の会へも寄付いただきました。本当に感謝しております。

さらにこの繋がりをさらに大きく、できる限り学校と連携し、こどもたちのコミュニティをできるだけ崩さず、少しでも安心できる環境でのびのび過ごしてもらうため、志ある人達と継続的に呼びかけていきたいと思います。引き続き応援のほどよろしくお願いいたします。

２０１４年１１月
さぽーと紡　代表　齋藤夕香

西本願寺にて

同世代の被災体験に触れ

福島の中高生招き交流

立命館宇治高校

8/20 京都新聞

8/19 立命館宇治高校との交流・平等院にて

福島の子供たち
久しぶりの再会
避難者と京都でキャンプ

8/22 毎日新聞

再会と出逢いは本当に貴重な体験でした！
協力いただいた皆様に感謝します！

頂いたカンパ金はこどもたちの保養費、紡活動維持費として使わせていただきます。

ゆうちょ銀行　１４４３０－２０７７１７９１
他金融機関からの振込　店名 四四八　　店番 ４４８　　普通預金 ２０７７１７９
さぽーと紡　代表　　齋藤夕香

さぽーと紡 HP　http://support-tumugi.jimdo.com/　ブログ　http://ameblo.jp/support-tumugi/
メール　tumugimail@yahoo.co.jp　　080-6034-3107　（齋藤）

私は被曝を避けるため、子どもを連れて 2012 年 1 月、福島市から京都にきました。
4 人の子どもがいますが、当時中三だった長女は、福島にいたい、友達や、じいちゃんばあちゃんと離れたくないと言うので、やむなく下の子 3 人を連れて来ました。
原発事故が起きた時は、まさか原発から 50km も離れている福島市飯野町まで、放射性物質が飛んでくるなんて夢にも思わず、避難することなど全く想像もしていませんでした。
しかし、年間の被曝限度 1 ミリシーベルトを、一気に 20 ミリシーベルトに引き上げられ、子どもたちはもちろん大人たちも、正確な情報を知らされないうちに、無用な被曝を強いられることになりました。
自分で放射線量の測定をし、さらに現実を知り、この国が決めた法律を、この国が破っていることに気がついたときには、既に原発作業員よりも杜撰な環境の中で生活させられていました。
原発作業員とは「放射線管理区域」という場所で被曝手帳をもち、管理下の元で働いている人たちのことを言いますが、「放射線管理区域」では 18 歳未満の子どもは働いてはいけない、つまり、いてはいけないと、法律で決まっています。
なのに「心配ならばマスク、長袖の服をきて、家に入ったら靴の底や洋服の埃を落として、洗ってください」程度で、子どもたちを逃がすなんてことよりも、「直ちに影響はない」と国は都合よく言い切りました。
子どもたちは何もわからず、土を触ります。山を駆け回ります。でも、野外で育てた食べ物も、遊びなれた土や、走り回った山や木も、すべて汚染されてしまいました。
目にも見えないから、まさかそんなはずはない、何かの間違いかもしれないと、何度も測ったり、新聞やテレビや、ネットで、なにが正しいのか知りたくてもがいていました。
でも、間違いではありませんでした。
学校の中は線量が低いから外に出るのは 30 分、運動会はなるべく土を触らないように、埃を吸わないように、校舎を高圧洗浄機で洗い流す…そんな、今まで気を遣ったこともないようなことをさせられて、今現在は除染が進んでいるし、だいぶ線量も下がっているから戻ってこいという流れになってきていますが、震災前よりも明らかに線量は高いままです。
もうやってもやっても、これ以上は下がらないのです。やりきれないのです。
私は今、福島と京都をいったり来たりしながらの生活を送っていますが、福島にいた頃とガラッと生活が変わって出費も増える一方です。親が元気で黙って理解してくれているから離れてもいられますが、本当なら私も家にいたいし、親達からも「帰ってきてほしい」と遠回しに言われています。今住んでいる借り上げ住宅も、一年毎延長で、落ち着かない生活が続いていますが、 震災前よりも明らかに放射線量が高いので、子どものことを考えると帰れず、先が見えません。

たまたま福島で起きた事故ですが、この小さな島国の日本には原発がたくさんあります。もし、東日本大震災ほどの地震が起きたら、同じような、もっと大きな原発事故がおきて、しなくてもいい被曝を知らないうちにさせられることになるかもしれません。
被災者は経験者だからこそ、同じような被害が繰り返されないよう、まだ未経験の人達やこれからの未来を担う子どもたちにはきちんと伝えなくてはなりません。大人たちは、不安を煽るのではなく事実と向き合い、これからどうしたらいいのかを、目を見て話し合える努力をして、子どもたちに託していく責任が大いにあると思っています。

さぽーと紡は、それに気がついた大人や学生や子どもたちに参加してもらい、東北と京都の子どもたち同士の交流を目的に活動しています。また、避難者こども健康相談会のサポートや、賛同してくださる団体、大学の先生や学生さん達と一緒に活動し伝え続けることを目標に、歩んでいけたらと思います。

さぽーと紡　代表　齋藤夕香